

目録 List

鳥取県の動物相に関する文献目録
Part 8 (2003-2006年)鶴崎展巨¹・淀江賢一郎²¹〒680-8551 鳥取市湖山町南4-101

鳥取大学地域学部生物学研究室

E-mail: ntsuru@rstu.jp

²〒690-0862 松江市比津が丘2-1-7

E-mail: yodoe@mable.ne.jp

¹Nobuo TSURUSAKI (Laboratory of Bioloby, Faculty of Regional Sciences, Tottori University, Tottori, 680-8551 Japan) and ²Ken-ichiro YODOE (Hizugaoka 2-1-7, Matsue, 690-0862 Japan): A bibliography concerning fauna of Tottori Prefecture, Honshu, Japan. Part 8 (2003-2006).

鳥取県の動物相についての文献紹介の目的で作成している目録の第8報である。2003-2006年中に刊行された文献が主体であるが、前報(鳥取生物, 35: 11-19, 2002年)までもれた1993年以降のものも若干含む。文献採録の基準は凡例に示したとおりで、第1報(鳥取生物, 28: 23-33, 1995年)からとくには変えていないが、データベース(FileMaker Proのファイル)に一度入力した文献は基準からややはずれていても、あまり積極的には削りなかつた(たとえば、とくに新記録を扱っているわけでない「短報」など)。

最後に付録として、2003年以降に県内をタイプ産地として記載された動物のリストを掲げる(今回は3種)。

文献入手または文献情報収集にご助力をいただいた田村昭夫、川上靖、佐藤隆士、松野 宏の各氏に御礼申し上げます。

凡 例

採録範囲は、おもに鳥取県内の陸上域(沿岸の水域を含む)に生息する動物に関する記録を含む文献であるが、本県に密接な関係があると思われるものは県外のものも対象としている。いっぽう、鳥取県内の動物に関する記事であっても、一般向けの啓蒙記事、観察ガイド、あるいはエッセイなどの、具体的なデータをともなわない記事、また簡単な観察会報告などは、原則としてとりあげない。また、配布範囲が狭いなどで、最初から正式公表を目的としたとは考えにくい記事(観察会で配布されるプリント、内部的報告書、大学のサークル・学校のクラブ等の部内機関誌に掲載されたもの)も原則として扱わない。

鳥取県内での初記録など動物相解明の点でとくに必要と思われるものを別として、短報やそれに類した簡略化された記録(野鳥の出現情報など)も、積極的には拾っていない。

配列は分類群ごとの(総合/哺乳類/鳥類/両生・爬虫類/魚類/昆虫: 総合/昆虫: トンボ類/昆虫: 直翅類/昆虫: 半翅目/昆虫: 甲虫/昆虫: 双翅目/昆虫: 鱗翅類/昆虫: 膜翅目/昆虫: その他/クモガタ類・多足類/甲殻類/軟体動物/その他の無脊椎動物/化石・考古/その他), 著者のアルファベット順である。

市販されているものについては価格を記した。

スラッシュ(/)以下は要旨あるいはコメントである。

NT=鶴崎展巨, KY=淀江賢一郎

【総合】

絢野眞理(2002) 広島近郊の里山探訪. ブックハウス(広島市), 134 pp. /広島近郊の動植物観察のガイドブック。コースの一つに鳥取県大山が含まれ、動植物の記述がある。動物はダイセンシジミ、ミヤマサナエが出ているのみ。夏山登山道3合目のキヨスミウツボの写真がある。1500円。

川上 靖(編)(2003) 世界どうぶつ物語 —動物地理学で語る鳥取から世界まで—。平成15年度 特別展 展示解説書, 鳥取県立博物館資料刊行会, 60 pp. 1200円(税込) / 2003年7月20日~8月24日に鳥取県立博物館で開かれた「世界どうぶつ物語—動物地理学で語る鳥取から世界まで—」の展示解説書。鳥取県立博物館で入手できる。

川上 靖・平尾和幸・清末幸久 (2004) 鳥取県沿岸における漂着動物の記録(2002年4月~2003年12月)。鳥取県立博物館研究報告, 41: 1-8. / トド(アザラシ目アシカ科)とテングノタチ*Eumethichthys fiski* (アカマンボウ目アカナマダ科)は鳥取県初記録。他にタイマイ、アカウミガメ、リュウグウノツカイなどの記録を含む。

川上 靖・清末幸久・一澤 圭・平尾和幸・安藤重敏 (2006) 鳥取県沿岸における漂着動物(2004年1月~2005年12月)とアカウミガメに付着していた暖海性紅藻類トゲキヌイトグサ*Antithamnion tanakae*。鳥取県立博物館研究報告, No.43, pp. 1-5.

鶴崎展巨(2003) 鳥取県において「新種」としてみつかった動物. p. 54. In: 川上靖(編) 世界どうぶつ物語 —動物地理学で語る鳥取から世界まで—。平成15年度 特別展 展示解説書, 鳥取県立博物館資料刊行会, 60 pp.

鶴崎展巨・岡田純・岡本宗裕(2003) 西因幡山地(鳥取県三国山・高鉢山・高山)の動物, pp. 117-147. In: 鳥取県環境政策課(編) 西因幡山地学術調査報告書。鳥取県, 170

pp.

林水産部森林保全課, 137 pp.

【哺乳類】

- 石黒直隆・渡部琢磨(2005) イノシシの遺伝子分布地図と起源. pp. 143-158. In: 増田隆一・阿部 久(編) 動物地理の自然史【分布と多様性の進化学】北海道大学図書刊行会(札幌), 288 pp.
- 川上 靖(2003) 鳥取県におけるアライグマの記録と外来種をめぐる諸問題. 郷土と博物館, 48: 13-19. / 鳥取県における移入種アライグマの記録. 鳥取県立博物館に保管されている外来種標本のリストも合わせて掲載。
- 小林 徹(2006) 智頭町(暖温帯低標高)におけるヤマネ(げっ歯目ヤマネ科)の記録. 山陰自然史研究, No.2, pp. 34-35.
- 小寺雄造・川上 靖(2003) 扇ノ山(鳥取県国府町)におけるヤマネ(齧歯目ヤマネ科)の記録. 山陰自然史研究, No. 1, pp. 26-27.
- 國本洗紀(2006) ミズラモグラの鳥取県三朝町からの初記録. 山陰自然史研究, No.2, p. 33.
- 岡田珠美・岡田 純(2006) 氷ノ山におけるヒナコウモリの初記録. 山陰自然史研究, No.2, pp. 39-40.
- 岡田珠美・鶴崎展巨(2003) 氷ノ山におけるミズラモグラの3例目の記録. 山陰自然史研究, No.1, p. 26
- 田中 謙・矢野智之・小林朋道(2003) GPSを利用したホンドタヌキの移動行動の解析. 山陰自然史研究, No.1, pp. 1-4.
- 山本賢二(2005) ツキノワグマの現状～若桜町からのレポート～. 鳥取自然保護の会会報, No.32, pp. 4-5.

【鳥類】

- 神谷 要, 桐原佳介(2005) 鳥取県米子市の弓ヶ浜で保護されたハジロミズナギドリ. 山階鳥類学雑誌, 37: 72-74. / 本種の日本海側での初記録。もちろん鳥取県初記録。米子市大篠津の弓ヶ浜海岸で2004年1月22日に保護の1個体(おそらく成鳥)。
- 神谷 要・中村雅子(2004) 中海・松島におけるカワウ・サギ類の繁殖状況. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 7, pp. 271-274.
- 奥山正樹(2004) 狩猟鳥ウズラ *Coturnix japonica* の現状. 山階鳥類学雑誌, 35: 189-202. / 都道府県別のウズラの最多捕獲年代(1920-1960年代)の図があり, それが, 鳥取県では1930～1939年, 鳥根県は残りの中国地方3県とともに1920～1929年と色分けされている。
- 鳥取県農林水産部森林保全課(2003) 第5回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」記念誌. とつとりの野鳥. 鳥取県農

【両生類・爬虫類】

- 藤島弘純(2003) 鳥取県中山町水田でヌマガエルを捕獲する. 山陰自然史研究, No.1, pp. 23-26.
- 細井光輝(2003) 鳥取県東部地域におけるカジカガエルの二つのタイプの分布様式. pp. 36-38. In: 川上靖(編) 特別展「世界どうぶつ物語」展示解説書, 鳥取県立博物館 / 兵庫県以東の本州と, 鳥取県・岡山県以西の本州・四国・九州・淡路島のカジカガエルの集団はオタマジャクシの下唇歯列の歯式により明瞭に区別される。両者の境界は鳥取県東部・兵庫県・岡山県の県境付近にあり, この地域では中間型が生じる。
- 川上 靖(2004) 身近な自然を訪ねて(48)—樗谷公園(鳥取県鳥取市)のカスミサンショウウオ。郷土と博物館(鳥取県立博物館, 鳥取市), 49: 19-21.
- 川上 靖(2005) 【資料紹介】両生類(カエル・サンショウウオ類)の精密レプリカ. 郷土と博物館(鳥取県立博物館, 鳥取市), 50: 27-28.
- 川上 靖・平尾和幸・岡田 純 (2005) 世界最大級のオオサンショウウオ *Andrias japonicus* の標本. 鳥取県立博物館研究報告, No.42, pp. 21-27.
- 桐原佳介・桐原真希(2006) 鳥取県西伯郡南部町におけるシロマダラの初記録. 山陰自然史研究, No.2, pp. 32-33.
- 國本洗紀(2003) 打吹山周辺におけるシロマダラの記録. 山陰自然史研究, No.1, p. 22.
- 倉本満・岡田純・鶴崎展巨(2002) 山陰地方東部のヌマガエル. 爬虫両棲類学会報, 2002 (1): 10-13.
- 松井正文(2003) 鳥取県を中心とした中国地方における両生類の地理的分化. pp. 31-35. In: 川上靖(編) 特別展「世界どうぶつ物語」展示解説書, 鳥取県立博物館, 60 pp. / 中国地方のサンショウウオ類, カエル類の遺伝的分化のパターンに関する近年の研究結果の総説。分化の境界が鳥取県や島根県を通過するものが多数あることがわかる。
- Matsui, M., Nishikawa, K., Utsunomiya, T. and Tanabe, S. (2006) Geographic allozyme variation in the Japanese clouded salamander, *Hynobius nebulosus* (Amphibia: Urodela). Biological Journal of the Linnean Society, 89: 311-330. / 西日本に広域に分布するカスミサンショウウオ46集団についてアロザイム分析を行なった。いずれの遺伝子座でも西部群(九州～中国地方西部)と東部群(四国・近畿・中部地方)の間には明瞭なギャップが見いだされた。この両者間ほど明瞭ではないが, 従来から知られていた中国山地の高地群と低地群の間にも一定のギャップがあるようである。西部群の中国地方

での東限は鳥根県高津川近辺で、それより東ではどの群にも帰属させられない集団を介して、低地群、高地群に置換している点が面白い。(NT)

岡田 純(2006) 鳥取県中・西部7河川におけるオオサンショウウオの生息状況. 山陰自然史研究, No.2, pp. 21-28.

岡田 純(2006) ヤマカガシの死体を食うオオサンショウウオを目撃. 山陰自然史研究, No.2, pp. 38-39.

岡田 純(2006) 鳥取県日南町大倉山からのカスミサンショウウオ高地型の記録. 山陰自然史研究, No.2, pp. 40-41.

吉郷英範・中村慎吾(2003) 比和町立自然科学博物館両生・爬虫類収蔵標本目録. 比和町立自然科学博物館標本資料報告, No.4, pp. 77-84. / 次の種に鳥取県産の標本が含まれる: カスミサンショウウオ(鳥取市野坂6-III-2001), イモリ(鳥取市野坂6-III-2001) スッポン(気高町7-III-2001), ジムグリ(鳥取市北村2-X-2001).

【魚 類】

青山徳久(2002) タナゴ類の地域個体群. pp. 36-37. In: 青山徳久・鈴木康典・淀江賢一郎(編) 宍道湖自然館第3回特別展 「たなごころの魚たち」 展示解説. 鳥根県立宍道湖自然館ゴビウス, 48 pp. / 多鯰ヶ池の1996年でのアカヒレタビラの生息調査のもようについて記述がある。このときの調査ではオイカワやブラックバス(オオクチバス)などの移入種ばかりで、アカヒレタビラは確認できなかったとのこと。

原 竜也(2003) 鳥取県におけるナガレホトケドジョウの初記録. 山陰自然史研究, No.1, pp. 10-12.

越川敏樹(2005) 中海・宍道湖水域に生息するハゼ類の棲息状況. ホシザキグリーン財団研究報告, No.8, pp. 219-240.

國本洸紀(2003) 天神川水系でスナヤツメを採集. 山陰自然史研究, No.1, p. 21.

中前雄一郎(2004) 地域限定手作り魚類図鑑 東郷湖とその周辺の魚たち. 東郷湖・天神川サケの飼育放流プロジェクト(鳥取県東郷町), 70 pp. / 鳥取県東郷湖に生息する魚類43種, 大型甲殻類8種, 両生類9種, 爬虫類6種(うち2種は危険動物として), 淡水貝類5種, 危険動物4種(マムシ, ヤマカガシ, キイロスズメバチ, フタモンアシナガバチ)の写真図鑑. 鳥取県と東郷町の『環境立憲協同促進事業』として企画・作成されたという。東郷湖の風景写真も美しい。解説もとおりでいっぺんでなく、面白く読める。鳥取県には従来、この類の書籍がほとんどなかったので本書の出版の意義は大きい。頒価1000円。(NT)

Ohara, K., Ariyoshi, T., Sumida, E. and Taniguchi, N. (2003)

Clonal diversity in the Japanese Silver Crucian Carp, *Carassius langsdorfii* inferred from genetic markers. *Zoological Science*, 20: 797-804. / ギンブナのクローン多様性をいくつかの遺伝的マーカーを使って明らかにした。調査サンプルに湖山池のものが含まれる。琵琶湖からのゲンゴロウブナやアユの移植にともなって全国に広まったという図式が読みとれるという。(NT)

Takehana, Y., Nagai, N., Matsuda, M., Tsuchiya, K., and Sakaizumi, M. (2003) Geographic variation and diversity of the cytochrome b gene in Japanese wild populations of Medaka, *Oryzias latipes*. *Zoological Science*, 20: 1279-1291. / 日本各地303地点の1225個体に基づく、メダカのチトクロームb遺伝子の地理的変異。丹後半島以西から鳥根県中部付近までの山陰にはサブクレードB-Xが、鳥根県西部から北九州、対馬にはサブクレードB-IXが分布。山陽を含む瀬戸内側に分布するサブクレードB-VIIも山口県東部でサブクレードB-IXに置換。関東地方では日本各地のタイプがみられ、人為移入による遺伝子攪乱が頻繁に起きていることが実証された。(NT)

山下祐介・小林朋道・内藤勝也(2006) 鳥取市国府町におけるスナヤツメ南方種の生息確認および行動に関する若干の知見. 鳥取県立博物館研究報告, No.43, pp. 7-11.

吉郷英範(2003) 八幡高原(広島県芸北町)のカワヨシノボリ. ホシザキグリーン財団研究報告, No.6, pp. 27-42. / 広島県太田川水系にてカワヨシノボリに斑紋の異なる2型(斑紋型, 無紋型)を確認。近隣地域での両者の分布は、日本海側では鳥根県西部と山口県, 福岡県北部に斑紋型, それより東側には無紋型と明瞭に分かれていた。ただし、鳥根県の東端と鳥取県の日野川上流に一部、斑紋型の集団があった。(NT)

吉郷英範・中村慎吾(2003) 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (III). 比和町立自然科学博物館標本資料報告, No.4, pp. 31-75. / 次の種に鳥取県産の標本が含まれる: タカハヤ(日南町日野川23-VI-2002), カジカ大卵型(江府町俣野川7-II-2002), カジカ中卵型(三朝町福本川, 7-II-2002), ドンコ(三朝町赤松天神川, 7-VII-2002), カワヨシノボリ無斑型(佐治村佐治川, 7-VII-2002), カワヨシノボリ斑紋型(日南町日野川, 23-VI-2002)(NT)

Yamanoue, Y., Miya, M., Matsuura, K., Katoh, M., Sakai, H., and Nishida, M. (2004) Mitochondrial genomes and phylogeny of the ocean sunfishes (Tetraodontiformes: Molidae). *Ichthyological Research*, 51: 269-273. / マンボウ科のミトコンドリアゲノムによる系統解析。鳥取県沖日本海のサンプルが分析に含まれる。

【昆虫:総合】

- 英 裕人(編)(2003) 昆虫関連団体雑誌年鑑2003. フタオ会(鳥取市), 159 pp.
- 英 裕人(編)(2004) 昆虫関連団体雑誌年鑑2004. フタオ会(鳥取市), 170 pp.
- 亀山 剛・中村慎吾(2006) 鍵掛峠(鳥取・広島県境)周辺の昆虫類. 比和科学博物館研究報告, 46: 115-228.
- 川上 靖・一澤 圭・渡辺啓子(2005) 大山自然歴史館(鳥取県大山町)の収蔵昆虫目録. 鳥取県立博物館研究報告, 42: 21-27.
- 桐原佳介・神谷 要(2006) 鳥取県日野郡日野町葦池における水生昆虫及び水草の記録. 山陰自然史研究, No.2, pp. 18-19.
- Nakamura, A. and Nakamura, K. (2004) Faunal make-up, host range and infestation rate of weevils and tephritid flies associated with flower heads of the thistle *Cirsium* (Cardueae: Astataceae) in Japan. *Entomological Science*, 7: 295-308. / アザミの花冠に生息するゾウムシとミバエ科のハエの種構成とホストレンジの調査. 調査地に鳥取県付近が含まれる. 調査地点名は不明.

【昆虫:トンボ目】

- Hayashi, F., Dobata, S., and Futahashi, R. (2005) Disturbed population genetics: suspected introgressive hybridization between two *Mnais* damselfly species (Odonata). *Zoological Science*, 22: 869-881. / ニシカワトンボとオオカワトンボのミトコンドリアDNAハプロタイプを分析した.
- 國本洗紀(2004) アオハダトンボの産地. ゆらぎあ, No.22, p. 21.
- 守安 敦(2002) ヒロシマサナエの新産地. 昆虫と自然, 37(14): 13. / 鳥取県東伯郡, 日野郡の2カ所でヒロシマサナエを新発見. きわめて局地的に生息する希少種であり, 重要な新知見である. (KY)
- 鈴木邦雄(2003) 'カワトンボ線'の動物地理学的意義—日本産カワトンボ属(トンボ目, カワトンボ科)の分類と地理的分布—. pp. 39-46. In: 川上靖(編) 特別展「世界どうぶつ物語」展示解説書, 鳥取県立博物館, 60 pp. / 鳥取県東部にみられるカワトンボ線の総説.
- 轟 裕明(2003) 湖山池周辺におけるアオモンイトトンボの初記録. 山陰自然史研究, No.1, pp. 22-23.

【昆虫:直翅目】

- 長谷川寿一(2004) 2004. 12月の昆虫達(ショウリョウバッタ

モドキを採集). ゆらぎあ, No.22, p. 24.

- 林 成多(2006) 鳥取県弓ヶ浜のハマズズ. すかしば, No.54, p. 36.
- 川上 靖(2003) 鳥取県およびその周辺におけるセトウチフキバッタ群の地理的変異. pp. 47-48. In: 川上 靖 (編) 特別展「世界どうぶつ物語」展示解説書, 鳥取県立博物館, 60 pp.
- 川上 靖(2006) セトウチフキバッタ *Parapodisma setouchiensis* の型間に二次的接触の痕跡はあるか? *New Entomologist*, 55: 9-13.
- 小林一彦(2006) 鳥取県の海浜性直翅目. すかしば, No.54, pp. 37-40.
- 國本洗紀(2004) ショウリョウバッタモドキの新産地. ゆらぎあ, No.22, p. 22.
- 國本洗紀(2005) ショウリョウバッタモドキの新産地. ゆらぎあ, No.23, p. 18.
- Ogawa, J. and Ohbayashi, N. (2003) Preliminary study of Japanese species of the genus *Tettigonia* (Orthoptera, Tettigoniidae). *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 9: 145-158. / ヤブキリ属の分類学的改訂. 次の種に検討標本に鳥取県産が含まれる: ヤマヤブキリ *Tettigonia yama Furukawa* 1938(溝口町大山, 1♂, 26-VII-2000, J. Ogawa; 江府町大山, 1♂1♀, 26-VII-2000, J. Ogawa; 国府町拾石, 1♂, 10-VIII-2000, J. Ogawa)

【昆虫:半翅目】

- 林 成多(2006) 鳥根県と鳥取県のムネアカアワフキの記録. すかしば, No.54, p. 36.
- Heiss, E. and Shono, Y. (2003) A new species of the bug genus *Aradus* Fabricius, 1803 (Heteroptera, Aradidae) from Japan. *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 9: 63-68. / *Aradus miyamotoi* Heiss and Shono 2003 フトヒゲヒラタカメムシの新種記載. タイプ産地は広島県吉和村. パラタイプの一部として氷ノ山(兵庫県)と大山の標本も含まれる.
- Kikuhara, Y. (2006) Taxonomic notes on two micrellytrine genera, *Paraplesius* and *Distachys* (Hemiptera, Alydidae). *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 12: 133-140. / 鳥取県からの次の種の記録が含まれる: ヒメクモヘリカメムシ *Paraplesius unicolor* Scott, 1874(大山, 22-VII-1932).
- Kikuhara, Y. (2006) A new species of the genus *Molipteryx* from Japan (Hemiptera, Coreidae). *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 12: 231-238. / 鳥取県からの次の種の記録が含まれる: オオヘリカメムシ *Molipteryx fuliginosa* (Uhler, 1860)(大山榎水ヶ原14-IX-1984, 横手

- 道15-IX-1984).
- 桐原佳介・菱谷眞一郎(2006) 鳥取県米子市内におけるコオイムシの記録. 山陰自然史研究, No.2, p. 20.
- 國本洗紀(2003) タガメの記録. ゆらぎあ, No.21, p. 20.
- 國本洗紀(2004) 2004年のアブラゼミの羽化数の少なさ. ゆらぎあ, No.22, p. 22.
- 國本洗紀(2005) 2005年のアブラゼミの羽化数. ゆらぎあ, No.23, p. 18.
- 中田 健・伊澤宏毅(2005) アブラゼミ *Gnaptopsalis nigrofusca* (Motschulsky)によるニホンナシ果実の被害様相. 日本応用動物昆虫学会中国支部会報, No.47, pp. 13-18. / 青谷町におけるニホンナシ果実の虫害被害の実態の報告.
- 尾原和夫(2004) マツムラゲンバイの再記録. すかしば, No. 52, p. 32.
- 山本正志(2006) 山陰地方のセミ類の採集・鳴き声等の観察記録(エゾ・アカエゾゼミ・チッチゼミ). すかしば, No. 54. pp. 60-61.
- 【昆虫:甲虫目】**
- 後藤和夫(2004) 鳥取砂丘でオオヒョウタンゴミムシを採集. ゆらぎあ, No.22, pp. 16-17.
- 後藤和夫(2004) 鳥取砂丘で採集したハンミョウ2種. ゆらぎあ, No.22, pp. 17-18.
- 林 成多・初宿成彦・八木 剛・曾田貞滋・岩井大輔(2003) 中国山地およびその周辺地域における湿地性ハムシ類の保全生物学的研究. ホシザキグリーン財団研究報告, No.6, pp. 1-25. / 中国山地におけるネクイハムシ類など湿地性ハムシの生息状況のまとめ. 次の種に鳥取県の記録が含まれる(ただし文献記録):キヌツヤミズクサハムシ(スゲハムシ)(唐川湿原, 菅野湿原), イネネクイハムシ(青谷町露谷), ガガブタネクイハムシ(鳥取市古郡家の用水池).
- 林 成多(2004) 総説・日本のネクイハムシ亜科. ホシザキグリーン財団研究報告, No.7, pp. 29-126.
- 林 成多(2004) 日本産ネクイハムシ亜科の絵解き検索による同定. ホシザキグリーン財団研究報告, No.7, pp. 127-136.
- 林 成多(2005) 日本産ネクイハムシ亜科の分布記録(1) ミズクサハムシ属. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 8, pp. 39-70.
- 日暮卓志(2004) 鳥取県鳥取市でのベーツヒラタカミキリの記録. すかしば, No.52, p. 9. / 鳥取市湖山におけるベーツヒラタカミキリの記録(1♀, 31-VII-1988).
- 門脇久志(2003) 鳥根県および鳥取県西部のブタクサハムシ(2). ホシザキグリーン財団研究報告, No.6, pp. 65-92. / 鳥根県および鳥取県西部でのブタクサハムシ分布状況の調査の続編. 2002年における米子方面からの松江市内への拡大のようすが示されている.
- 門脇久志(2004) 鳥根県および鳥取県西部のブタクサハムシ(3). すかしば, No.52, pp. 49-64. / 鳥根県と鳥取県西部における帰化昆虫ブタクサハムシの分布状況の続報.
- 門脇久志(2005) 鳥根県および鳥取県西部のブタクサハムシ(4). ホシザキグリーン財団研究報告, No.8, pp. 203-217.
- 貸谷康宏・田村昭夫(2003) ゲンゴロウ3種の記録. ゆらぎあ, No.21, pp. 10-11.
- 岸井 尚(2003) 森正人氏蒐集のコメツキムシ. ねじればね, No.107, pp. 1-9. / タテスジカネコメツキ(扇ノ山, 1995. 5. 19, 1♀), 鳥取県初記録. (KY)
- 岸井 尚・山地 治(2004) 鳥取県産コメツキムシ採集記録(1). すずむし, No.138, pp. 37-40. / 鳥取県産のコメツキムシのかなりまとまった記録(71種).
- 岸井 尚・山地 治(2004) 鳥取県産コメツキムシ採集記録(2). すずむし, No.139, pp. 24-25. / 鳥取県産のコメツキムシ16種の記録.
- 國本洗紀(2005) コガタノゲンゴロウの生態(その1). ゆらぎあ, No.23, pp. 1-7.
- 國本洗紀(2006) コガタノゲンゴロウの生態(その2)—繁殖地と越冬地間の移動—. ゆらぎあ, No.24, pp. 1-6.
- 松岡善一(2006) 鳥取市街地の灯火で採集したベーツヒラタカミキリの記録. すかしば, No.54, p. 21.
- 水野弘造(2004) 鳥取県大山産甲虫 目録. すずむし, No.138, pp. 43-55. / 鳥取県産の甲虫類のかなりまとまった記録.
- Morita, S. (2003) Two new *Pterostichus* (Coleoptera, Carabidae) from Honshu, Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 9: 1-8. / オサムシ科のトットリナガゴミムシとイブキナガゴミムシの2新種の記載. トットリナガゴミムシ *Pterostichus (Niatoe) tottoriensis* Morita, 2003は大山がタイプ産地. 備考には, 本種は金剛山から知られるコンゴウナガゴミムシ *P. (N.) kongosanus* Nakane 1963に最も似ており, 変異幅においてもかなりオーバーラップする. 同一種の亜種ともみなせうるが, 金剛山と大山の間には大阪平野という地理的ギャップがあるので, 別種として扱ったと述べている. 鳥取県固有種が産まれることは嬉しいのだが, この論理には同意できない. もしこのような基準で種を認識するなら, 屋久島のニホンザルを含め哺乳類の多くの島嶼亜種は本土のものとはすべて別種になり, 日本産のザトウムシの種数(現在約80種)もいまの10倍くらいに増えるに違いない. (NT)
- 中峰 空(2005) 中国地方におけるセダカコブヤハズカミ

- キリの分子系統解析. ホシザキグリーン財団研究報告, No.8, pp. 71-76.
- 中野一成(2003) 高鉢山(鳥取県)でケブトハナカミキリを採集. すずむし, No.137, p. 71. / 鳥取県初記録となる佐治村高鉢山からのケブトハナカミキリ *Caraphia lepturoides* (Matsushita)の記録(1♂1♀, 1999. 8. 1).
- Naomi, S. (2006) Taxonomic revision of the genus *Stenus* Latreille, 1797 (Coleoptera, Staphylinidae, Steninae) of Japan: Species group of *S. indubius* Sharp. Japanese Journal of Systematic Entomology, 12: 39-120. / 鳥取県からのメダカハネカクシ属の1種 *Stenus* (*Hypostenus*) *naomii* Puthz, 2001の三朝温泉からの記録が含まれる(1986. 9. 28)。既知産地は兵庫県摩耶山, 三室山, 三朝温泉。
- 大平仁夫・中村慎吾(2004) 広島県産コメツキムシ類の記録(22). 比婆科学, No.212, pp. 27-35. / 次の14種については, 鳥取県日南町産のものが記録に含まれる: サビキコリ, ムナビロサビキコリ, ヨツモンミズギワコメツキ, ミヤマベニコメツキ, クロツヤハダコメツキ, キバネホソコメツキ, カバイロコメツキ, クチボソコメツキ, クチブトコメツキ, クロツヤクシコメツキ, ナガチャクシコメツキ, コガタクシコメツキ, ハネナガオオクシコメツキ, ヒラタクシコメツキ。
- Okushima, Y. (2005) A taxonomic study on the genus *Lycocerus* (Coleoptera, Cantharidae) from Japan, with zoogeographical considerations. Japanese Journal of Systematic Entomology, Monographic Series, No.2, 383 pp. / ジョウカイボン科 *Lycocerus* 属の分類学的改訂。鳥取県産として次の種の標本が扱われている: ジョウカイボン(西日本亜種) *Lycocerus suturellus luteipennis*, クロジョウカイ *L. attristatus*, スエボシジョウカイ *L. vitellinus*, ムネアカクロジョウカイ *L. adusticollis*, ホウキセスジジョウカイ *L. hokiensis* Okushima 2005(タイプ産地: 西伯町境), ミヤマヒメジョウカイ *L. alpicola*, ヒメジョウカイ *L. japonicus*, ホソニセヒメジョウカイ *L. okuyugawaranus*, フチエリジョウカイ *L. maculiellytris*, クビアカジョウカイ *L. oedemeroides*。
- 佐々治寛之(2004) 広島県のテントウムシ科の分布記録(5). 比婆科学, No.213, pp. 13-16. / 比和科学自然科学博物館収蔵の広島県産のテントウムシ科標本による分布記録。一部に鳥取県産も含まれる。鳥取県産は, ツマアカヒメテントウ, クロテントウ, シロジョウシホシテントウ(以上いずれも日南町新屋2003年)。
- 佐野信雄(2000) 伯耆大山で採集したコブスジコガネ3種の記録. さい角通信, No.1, p. 47. / チビコブスジコガネ, ヒメコブスジコガネ, コブナシコブスジコガネの3種。2000. 7. 4. (KY)
- Satoh, A. and Hori, M. (2005) Microhabitat segregation in larvae of six species of coastal tiger beetles in Japan. Ecological Research, 20: 143-149. / 海浜性ハンミョウ6種のマイクロハビタット分離。調査地点として鳥取砂丘(ハラビロハンミョウとカワラハンミョウ)が含まれる。
- Satoh, A., Uéda, T., Enokido, Y., and Hori, M. (2003) Patterns of species assemblages and geographical distributions associated with mandible size differences in coastal tiger beetles in Japan. Population Ecology, 45(2): 67-74. / 日本の海岸砂浜に生息するハンミョウ科9種の種集合のパターンの調査。2種または3種が共存する地点では, 種間で大顎のサイズがほとんど重ならない。鳥取県多鯨ヶ池と鳥取砂丘, および島根県出雲市海岸の3地点が17調査地のうちに含まれる。多鯨ヶ池で共存する3種(エリザハンミョウ+コニワハンミョウ+ハラビロハンミョウと鳥取砂丘で共存する3種(エリザハンミョウ+カワラハンミョウ+ハラビロハンミョウ)の間で大顎のサイズはほとんど重ならない。島根県出雲市では2種(エリザハンミョウ+ハラビロハンミョウ)が見つかるが, 大顎サイズの分布からはこの中間のサイズを埋める第3の種が入り込む余地がありそうである。ハラビロハンミョウの学名に *Lophyridia angulata* (Fabricius) が使用されている(従来の *Cicindela sumatrensis* はこれの新参シノニムだそう)。(NT)
- Shimada, T. (2005) New records of *Platycerus acuticollis akitai* (Coleoptera, Lucanidae) from the Island of Dogo of the Oki Islands, West Japan. Kogane, Tokyo, No.6, pp. 45-46. / *Platycerus acuticollis akitai* Fujita 1987キンキコリクワガタを隠岐島後大満寺山から初記録。比較標本として鳥取県大山の同亜種の標本が使われている(大山1♂1♀, 11-XI-1998)。
- 曾田貞滋(2003) ミトコンドリアDNA分析に基づく西日本のオオオサムシ亜属の系統地理学的研究. ホシザキグリーン財団研究報告, No.6, pp. 153-166. / オオオサムシ亜属5種のmtDNAのND5遺伝子の塩基配列にもとづく系統地理学的研究の総説。系統解析結果は種間交雑による遺伝子移入が頻繁にあったことを示唆。次の種では鳥取県産の標本も扱われている(いずれも産地は大山小鳥の道): ダイセンオオサムシ, オオオサムシ, ヤコンオオサムシ中国地方北部亜種。(NT)
- 塚本圭一(2003) 日本フン虫誌(4): 絶滅に瀕するフン虫. さい角通信, No.6, pp. 33-41.
- 山地 治(2005) 高鉢山(鳥取県)から採集したオオキノコ. すずむし, No.140, pp. 85-86.
- 山地 治(2005) 鳥取県の水生甲虫2種. すずむし, No.140, p. 92.

【昆虫:双翅目】

- 古田 治(2005) 鳥取砂丘採集記—ゴヘイニクバエを求めて, はなあぶ, 19: 43-46./環境省版RDBで準絶滅危惧のゴヘイニクバエの鳥取砂丘からの記録。
- Maeta, Y., Munakata, M., and Kitamura, K. (2005) New distributional records of the three species of conopid flies from Japan and Korea (Diptera, Conopidae, Myopinae). *Chugoku Kontyu*, No.19, pp. 37-38./*Myopa maetai* (メバエ科)の鳥取県智頭町芦津と大山の標本が扱われている。
- 笹川満廣(2003) 日本産双翅目ノート2. 昆虫(ニューシリーズ), 6(3): 119-133./クロバネキノコバエ科の1種*Mohrigia megalocornula* (Mohrig and Menzel 1992)(和名なし)の所見標本として鳥取県大山産の雄が記録されている。
- Uesugi, K. (2004) Fungus gnats of the genus *Urytalpa* Edwards (Diptera: Keroplatidae) in Japan. *Entomological Science*, 7: 369-376./ツノキノコバエ科の*Urytalpa*属の改訂。*Urytalpa yoshidai* Uesugi, n. sp. のパラタイプに大山の標本(1♂, 8-VIII-1978)が含まれる。
- 長谷川寿一(2004) 2月, 早春の蛾の発生記録. ゆらぎあ, No. 22, p. 24.
- 長谷川寿一(2004) クモガタヒョウモンの記録. ゆらぎあ, No.22, p. 25.
- 長谷川寿一(2004) 10年ぶりにギフチョウが帰ってきた! ゆらぎあ, No.22, p. 25.
- 長谷川寿一(2005) クロコノマチョウの高標高での目撃記録. ゆらぎあ, No.23, p. 18.
- 長谷川寿一(2005) アサギマダラの春の記録. ゆらぎあ, No. 23, p. 19.
- 長谷川寿一(2005) 倉吉市のスギタニルリシジミの記録. ゆらぎあ, No. 23, p. 21.
- 橋本秀明(2003) イシガケチョウを採集. ゆらぎあ, No.21, p. 21,
- 橋本秀明(2004) ウスバシロチョウを採集. ゆらぎあ, No.22, p. 15.
- 橋本秀明(2004) クロコノマチョウを採集, 目撃. ゆらぎあ, No.22, p. 17.
- 橋本秀明(2006) 岩美町陸上でホシミスジを採集. ゆらぎあ, No.24, p. 25.
- 生田 敬(2003) クロコノマチョウを採集. ゆらぎあ, No. 21, pp. 21-22.
- 生田 敬(2005) ムラサキツバメ採集記録. ゆらぎあ, No. 23, 20-21.

【昆虫:鱗翅目】

- 藤田久男(2004) キマダラルリツバメの黒条発達個体. 蝶研フィールド, 19(10): 31./鳥取市護国神社, 2004. 6. 13, 1♂.
- 古田光春(2003) 2002年観察採集記録. よいこの蟲だより, No. 194: 9347./2002. 6. 17, 鳥取砂丘のキマダラルリツバメ採集記録.
- 古田晋平(2004) 11月にイシガケチョウを目撃. ゆらぎあ, No.22, p. 18.
- Gomi, T., Muraji, M. and Takeda, M. (2004) Mitochondrial DNA analysis of the introduced fall webworm, showing its shift in life cycle in Japan. *Entomological Science*, 7: 183-188./北米から日本に1945年に侵入したアメリカシロヒトリ*Hyphantria cunea* (ヒトリガ科)は侵入時には年2化だったか, 西南日本では現在3化性となっている。日本・韓国, 北米の本種におけるmtDNAの地理的変異を調べたところ, 日本と韓国産のmtDNAは単一であった。これより, 3化性は日本に侵入後, 獲得された形質と推定されるという。材料の一部に鳥取県のサンプルが含まれる。(NT)
- 長谷川寿一(2004) メンガタスズメを採集. ゆらぎあ, No. 22, p. 22.
- 長谷川寿一(2004) ウスバシロチョウの記録. ゆらぎあ, No. 22, p. 24.
- 桐原佳介(2006) 米子水鳥公園におけるアオタテハモドキの記録. 山陰自然史研究, No.2, p. 32.
- 小林一彦(2005) 平成16年度鳥取県ウスイロヒョウモンモドキ保護管理事業について. 鳥取自然保護の会会報, No. 32, pp. 1-2
- 小林一彦(2006) 鳥取平野の孤立丘陵におけるヒメジャノメ・コジャノメの生息状況について. すかしば, No. 54, pp. 33-35.
- 小村制伸(2003) 山陰のギフチョウ採集案内. みやくに通信, No.144. p. 1490./米子市岡, 倉吉市梓谷, 三朝町安永, 関金町野添, 江府町木谷。
- 神垣健司(2005) 中国地方のシルビアシジミの衰亡と考察. 蝶研フィールド, No.227. pp. 27-30./高速道路沿いの帰化植物セイヨウミヤコグサによって分布域拡大の様相が見られることを重要な知見としている。(KY)
- 國本洗紀(2003) キベリゴマフエダシャクの採集. ゆらぎあ, No.21, p. 21.
- 松野 宏(2006) ウスバシロチョウの分布と変異の関係について. Citrina通信, 東京, No.178, pp. 1-6./ウスバシロチョウの翅の黒化度が千代川の東西で顕著に異なる。東側の国府町などで黒化が強い。斑紋パターンはこの付近では変化しない。
- 松岡善一(2006) 鳥取県扇ノ山で採集したサツマシジミにつ

- いて。すかしば, No.54. p. 14./2005. 6. 25, 1♀;2005. 6. 28, 1♂。
- 中田 健・伊澤宏毅(2006) 鳥取県におけるクワゴマダラヒトリ (*Spilosoma imparilis* Butler)の発生と薬剤の殺虫効果. 日本応用動物昆虫学会中国支部会報, No.48, pp. 15-22.
- 中藺洋行・星川和夫(2003) ウスイロヒョウモンモドキ三瓶山個体群の動態:2002年度モニタリング調査の報告. 中国昆虫, No.16, pp. 35-44.
- 緒方正雄(2004) 2003年度採集日記. のせ, 33(8): 1./八頭郡船岡町, 2003. 6. 22, 8 exs.
- 緒方正雄(2004) 2004年度採集日記. のせ, 33(10): 4./八頭郡船岡町, 2003. 6. 23, 35 exs.
- 小椋 隆(2003) 2003年イシガケチョウの目撃記録. ゆらぎあ, No.21, p. 21.
- 小椋 隆(2004) ウラゴマダラシジミ蛹より羽化したヒメバチの一種. ゆらぎあ, No.22, pp. 20-21.
- 小椋 隆(2006) ギフチョウの軽微な斑紋異常個体. ゆらぎあ, No.24, pp. 25-26.
- 坂田国嗣(2004) チョウの観察記録. すかしば, No.52, pp. 41-46.
- 坂田国嗣(2004) 大山にてミスジチョウ産地確認. すかしば, No.52, p. 25./大山町溝口町でのミスジチョウの越冬幼虫(21-III-2004).
- 佐々木英之(2006) 鳥取県西部において秋期にムラサキツバメの発生と観察. すかしば, No.54, pp. 17-18.
- 佐々木英之(2006) 鳥取県大山におけるサツマシジミの記録. すかしば, No.54, p. 19./1988-2005年までに採集した十数例の採集記録. 2006年6月30日にはリョウブの蕾に産卵する♀を目撃, 卵と生♀を持ち帰ったが, 飼育はできなかったという。(KY)
- 佐々木孝明(2003) 鳥取県大山でオオウラギンヒョウモンを採集. ゆずりは, No.16, p. 26./2002. 8. 3, 1♂。この記録は重要なものであり再確認が望まれる。(KY)
- 坂田国嗣(2004) メスグロヒョウモン・ウラナミアカシジミを確認. すかしば, No.52, p. 26.
- 清水健一(2004) 比和科学自然科学博物館に収蔵されている広島県産蛾類. 比婆科学, No.213, pp. 1-12./比和科学自然科学博物館収蔵の未同定のガ類標本の同定結果の一覧。一部に鳥取県産と島根県産も含まれる。鳥取県産として出ているのはリングosg, カギバノメイガ, モンシロルリノメイガ, ハグルマエダシャク, ウストビスジエダシャク, スカシドクガ, ハラアカマイマイ, ウスキコヤガ, ネジロコヤガ, シロマダラコヤガ, ソトウスグロアツバ, ヒゲブトクロアツバ(以上, いずれも日南町新屋2003年)。
- 下雅意公夫(2006) 鳥取市でホシミスジ採集. ゆらぎあ, No. 24, p. 25.
- 杉本博美(2004) アカシジミの目撃. ゆらぎあ, No.22, pp. 14-15.
- 杉本博美(2006) 「アサギマダラの渡り」について. ゆらぎあ, No.24, pp. 22-23.
- 多賀敏正(2003) 伯耆大山でサツマシジミを採集. めもてふ, No.170, p. 4./1990. 6. 24, 1♀.
- 田村昭夫(2003) モンキチョウのハリエンジュへの産卵例. ゆらぎあ, No.21, p. 22.
- 田村昭夫(2004) 最北の記録. クロメンガタスズメ倉吉で発生. ゆらぎあ, No.22, pp. 1-4.
- 田村昭夫(2004) 3月にイシガケチョウを採集. ゆらぎあ, No. 22, p. 19.
- 田村昭夫(2004) シンジュウキノカワガを採集. ゆらぎあ, No.22, pp. 19-20.
- 田村昭夫(2005) 続けて発生したクロメンガタスズメ. ゆらぎあ, No.23, p. 17.
- 田村昭夫(2005) クロコノマチョウを採集. ゆらぎあ, No. 23, p. 19.
- 上本弘幸・前藤文三(2001) 広島県東部の蛾類(II). 比和科学博物館研究報告, No.41, pp. 181-234./広島県708種, キクキンウワバ(境港, 1998. 12. 29)の記録を含む。(KY)
- 山脇清高(2006) 記入のあるアサギマダラ. ゆらぎあ, No. 24, p. 23.
- 矢野和之(2003) 蝶類採集情報. 愛蝶会ニュース, No.103, p. 15.
- 在本定夫(2003) ジョウザンミドリシジミの裏面白帯の幅広個体. みちしるべ, No.31, p. 259.

【昆虫:膜翅目】

- Mitai, K. and Tadauchi, O. (2005) Systematic notes on the *basalis* and *trispinosa* species groups of the genus *Nomada* (Hymenoptera, Apidae) in Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 11: 1-10./*Nomada japonica* Smith 1854 ダイミョウキマダラハナバチの検討標本に鳥取県産が含まれる。1♀, Kuritani 6-V-1931, S. Yamamoto leg. Kuritaniは鳥取市栗谷か。
- 内藤親彦(編著)(2004) 兵庫県におけるハバチ類の種多様性. 兵庫県立人と自然の博物館 自然環境モノグラフ, No.1, pp. 1-86./兵庫県内228地域から採集された15000点の標本の調査で記録された11科331種のハバチの目録と記録。全種について分布図が付き, うち150種についてカラーの標本写真が掲示されている。市町村別の分布一覧表もある。鳥取県側の記録は掲載されていないが, 氷ノ山や扇ノ山などの記録が多く, 鳥取県側での参考になる。(NT)

日本産アリ類データベースグループ(2003) 学研の大図鑑. 日本産アリ類全種図鑑. 学研(東京), 196 pp./アリの絵解き検索表つき図鑑. 同じ著者グループにより以前に同類の検索表が発行されているが, 今回のものには各種のカラー写真がつき, アリの同定がはるかに容易になった。県別の記録の有無が日本地図で表示されており, 各種の鳥取県や島根県の記録の有無もわかる。

7000円。(NT)

佐藤隆士(2006) チャイロスズメバチの鳥取県からの記録. 月刊むし, No.430, pp. 28-29./鳥取県新記録となる鳥取市東町からのチャイロスズメバチの記録(2006年7月12日)。北方系の種でこれまでの分布西限地は大阪府箕面であった。

【昆虫:その他】

長谷川寿一(2004) ヒメカマキリモドキを採集. ゆらぎあ, No.22, p. 23.

Ishiwata, S. (2003) A revision of the genus *Cincticostella* (Insecta: Ephemeroptera: Ephemerellidae) from Japan. *Species Diversity*, 8: 311-346./*Cincticostella*属カゲロウの分類学的改訂. 次の種の検討標本に鳥取県産の標本が含まれる:*Cincticostella elongatula* (McLachlan)オオクママダラカゲロウ(袋川殿ダム, 日野川溝口町荘), *C. nigra* (Uéno)クロマダラカゲロウ(日野川溝口町荘), *C. orientalis* (Tshernova)チェルノバマダラカゲロウ(日野川溝口町荘)。

Fujitani, T., Hirowatari, T., Kobayashi, N. and Tanida, K. (2004) First record of *Baetis taiwanensis* Müller-Liebenau from Japan, with description of the imago and subimago (Ephemeroptera: Baetidae). *Entomological Science*, 7: 39-46./*Baetis taiwanensis* Müller-Liebenauフタモンコカゲロウの日本からの新記録. 検討標本に鳥取県産が含まれる: 米子市上福原(日野川), 溝口町日野川鬼守橋。

田中真悟(2006) バイトトラップによるトビムシ類の採集記録(広島県, 鳥取県, 島根県, 山口県). 比婆科学, No. 220, pp. 11-17./鳥取県日南町の13種, 島根県27種の記録を含む。

宇野 明・田村昭夫(2003) 東郷町今滝でカタツムリトビケラを採集. ゆらぎあ, No.21, pp. 9-10.

山内健生(2003) 中国地方におけるクシヒゲカゲロウ科の追加記録. 中国昆虫, No.16, pp. 7-8./広島県からのクシヒゲカゲロウ *Dilar japonicus* (クシヒゲカゲロウ科)の新記録. 東正雄(2001)に記録されているヒロバカゲロウ科のウンモンヒロバカゲロウは, クシヒゲカゲロウ科の雌の誤同定であることを指摘。ただし, 雌では正

確な同定が困難なため *Dilar* sp. として再記録(大山元谷)。

【クモガタ類・多足類】

Edgecombe, G. D. and Giribet, G. (2006) A century later - a total evidence re-evaluation of the phylogeny of scutigermorph centipedes (Myriapoda: Chilopoda). *Invertebrate Systematics*, 20: 503-525./ゲジ *Thereuonema tuberculata* (Wood 1862)鳥取市和奈見千代川左岸(8-VIII-2005)鶴崎採集の標本が含まれる。

Suzuki, S., Tsurusaki, N. and Kodama, Y. (2006) Distribution of an endangered burrowing spider *Lycosa ishikariana* in the San'in Coast of Honshu, Japan (Araneae: Lycosidae). *Acta Arachnologica*, 55: 79-86./環境省版RDBで危急種(VU)とされているイソコモリグモの鳥取・島根両県の山陰海岸における生息状況を調べ, これまで未記録だった島根県の出雲市稲佐浜から益田市戸田海岸までの7つの異なる砂浜の8地点で本種の生息を確認した。これにより本種の分布西南限はこれまでの鳥取県弓ヶ浜から約160km西にのびた。鳥取県側では過去の生息確認地点数を上回る17地点で生息を確認した。ロジスティック回帰分析から本種の生息(50%生息確率)に必要な面積は0.0313km²以上(全長985m, 幅60m), 砂の中央粒径は0.33mm以上と推定された。(NT)

徳本 洋(2004) アシダカゲモ分布記録へのコアアシダカゲモ属の種の誤入. *Kishidaia*, No.86, pp. 1-9./アシダカゲモの記録にしばしばコアアシダカゲモやヒメアシダカゲモが誤同定されたものがあることを指摘。鳥取県立博物館所蔵標本目録(1984)の大山産のアシダカゲモ(1966年6月10日採集: 標本番号378-0301-01)がヒメアシダカゲモ類似種の誤同定であることを指摘。

鶴崎展巨(2003) 東アジア—北米東部型隔離分布を示すザトウムシ. p. 15. In: 川上靖(編) 特別展「世界どうぶつ物語」展示解説書, 鳥取県立博物館, 60 pp./東アジア—北米東部型の隔離分布を示すザトウムシ4の紹介。うち3種は鳥取県にも生息。智頭町那岐山産のママザトウムシの写真あり。

鶴崎展巨(2003) 日野川と千代川が産み出す生物多様性 — 鳥取県とその周辺におけるザトウムシの地理的分化 —. pp. 49-53. In: 川上靖(編) 世界どうぶつ物語 — 動物地理学で語る鳥取から世界まで —. 平成15年度特別展展示解説書, 鳥取県立博物館資料刊行会, 60 pp.

Tsurusaki, N. (2006) Geographic variation of chromosomes and somatic morphology in the polymorphic species *Leiobunum*

hiraiwai (Arachnida: Opiliones: Sclerosomatidae). Zootaxa, No.1325, pp. 157-190. / 関東地方以西～中国山地の本州, 九州北部, 対馬に分布するヒライワスベザトウムシ *Leiobunum hiraiwai* の分類学的再検討。鳥取県産標本を含む。

山内健生(2003) 氷ノ山で採集された2種のマダニ(ダニ目: マダニ科). 山陰自然史研究, No.1, p. 21

吉田 哉(2003) 日本産ヒメグモ科総説. 日本蜘蛛学会, 223 pp. / 日本産のヒメグモ科のモノグラフ。鳥取県の標本記録も多数含まれる。島根県からの標本記録もかなり含まれる。頒価4000円。入手については著者の吉田哉氏へ問い合わせのこと: 〒990-2484 山形市籠田2-7-16. E-mail: araneae@mb.infoweb.ne.jp, ISBN:4-9901449-808.

【甲殻類】

本尾 洋(2003) 日本海産カニ類—I. 既知種. のと海洋ふれあいセンター研究報告, No.9, pp. 55-68. / 山口県から北海道までの日本海側13県のカニ類の全既知記録の整理。鳥取県からは110種, 島根県からは88種が記録されているよう。

布村 昇(2003) 鳥取県産陸生等脚目甲殻類. 山陰自然史研究, No.1. pp. 5-9.

【軟体動物】

一澤 圭・川上 靖・本田夏海・倉長亮二(2006) 日本海大和堆で採集されたマッコウタコイカ *Gonatopsis makko* (ツツイカ目テカギイカ科). 鳥取県立博物館研究報告, 43: 13-15.

増田 修・内山りゅう(2004) 日本産淡水貝類図鑑 2. 汽水域を含む全国の淡水貝類. 株式会社ピーシーズ(東京)240 pp. 3238円.

西 浩孝・曾田貞滋(2005) ミトコンドリアDNA分析に基づく中国地方のマイマイ属の系統地理学的研究. ホシザキグリーン財団研究報告, 8: 185-195.

谷岡 浩(2006) カタツムリの話(下). 鳥取自然保護の会会報, 34: 4-5.

宇野 明(2006) 鳥取県におけるカサネシタラガイの記録. 山陰自然史研究, No.2, p. 34.

【その他の無脊椎動物】

Kogure, Y. and Nagasawa, T. (2004) Relationship between the distribution of *Ophiura sarsii* (Echinodermata, Ophiuroidea) and Benthic environmental variables in the

Sea of Japan. Biogeography, 6: 17-26. / 対馬から北陸にかけての日本海の91地点のサンプリングに基づくクシノハクモヒトデの1種, *Ophiura sarsii* の分布とその要因の解析。鳥取県・島根県沖のサンプルも多数含まれる。

Nishi, E., Kato, and T., Hayashi, I. (2004) *Sabellaria tottoriensis* n. sp. (Annelida: Polychaeta: Sabellariidae) from shallow water off Tottori, the Sea of Japan. Zoological Science, 21: 211-217. / 鳥取県泊村石脇の鳥取県栽培漁業センター沖水深2-6mの浅海から採集された標本に基づきカンムリゴカイの1新種 *Sabellaria tottoriensis* を記載した。

【化石・考古】

平尾和幸(2004) 国府町宮下から産出したアジア最古のスズメ目化石. 郷土と博物館(鳥取県立博物館, 鳥取市), 49: 1-6.

平尾和幸・広田昌昭(2003) 鳥取県八頭郡船岡町の三郡変成帯から見つかったコノドントと放散虫について. No. 40, pp. 1-19.

井上貴央(2002) 青谷上寺地遺跡から検出された人骨と動物遺存体. In: 鳥取県教育文化財団調査報告書74. 一般県道青谷停車場井手線地方特定道路整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書II. 鳥取県気高郡青谷町 青谷上寺地遺跡 4. pp. 436-480. +100-139図版.

松浦啓一(編)(2005) 魚の形を考える. 東海大学出版会(東京)286 pp. 2800円.

【その他】

江原昭三(2006) 有田立身さんを悼む. 山陰自然史研究, No. 2, p. 47.

引地勘治(2006) クモ研究者, 有田立身さんを偲ぶ. 鳥取県立博物館協会会報, No.74, p. 9.

■鳥取県内のタイプ産地(2003-2006年記載分)

1. 鳥取県大山: トットリナガゴミムシ *Pterostichus (Nia-toe) tottoriensis* 2003 (オサムシ科)
2. 鳥取県西伯町境: ホウキセスジジョウカイ *Lycocerus hokiensis* Okushima, 2005 (ジョウカイボン科)
3. 鳥取県泊村石脇の鳥取県栽培漁業センター沖水深2-6mの浅海: *Sabellaria tottoriensis* Nishi, E., Kato, and Hayashi, 2004 カンムリゴカイの1種(カンムリゴカイ科)